

全体構造フェーズ 第2回 第3回

第2回・第3回では、プロジェクトの骨格となる部分（5つのプロセス群と主要なマネジメント）について解説します。
あくまで骨格の部分であるため、必ず PMBOK ガイドで確認をしましょう。

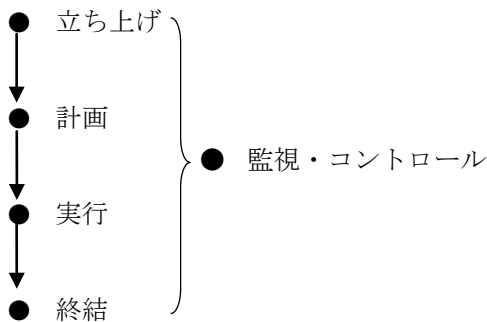
プロジェクトイメージ

架空のプロジェクトを創造しましょう。

プロジェクト

⇒ プロジェクトとは、プロダクト・サービス・所産を創造するために実施される有期的な業務

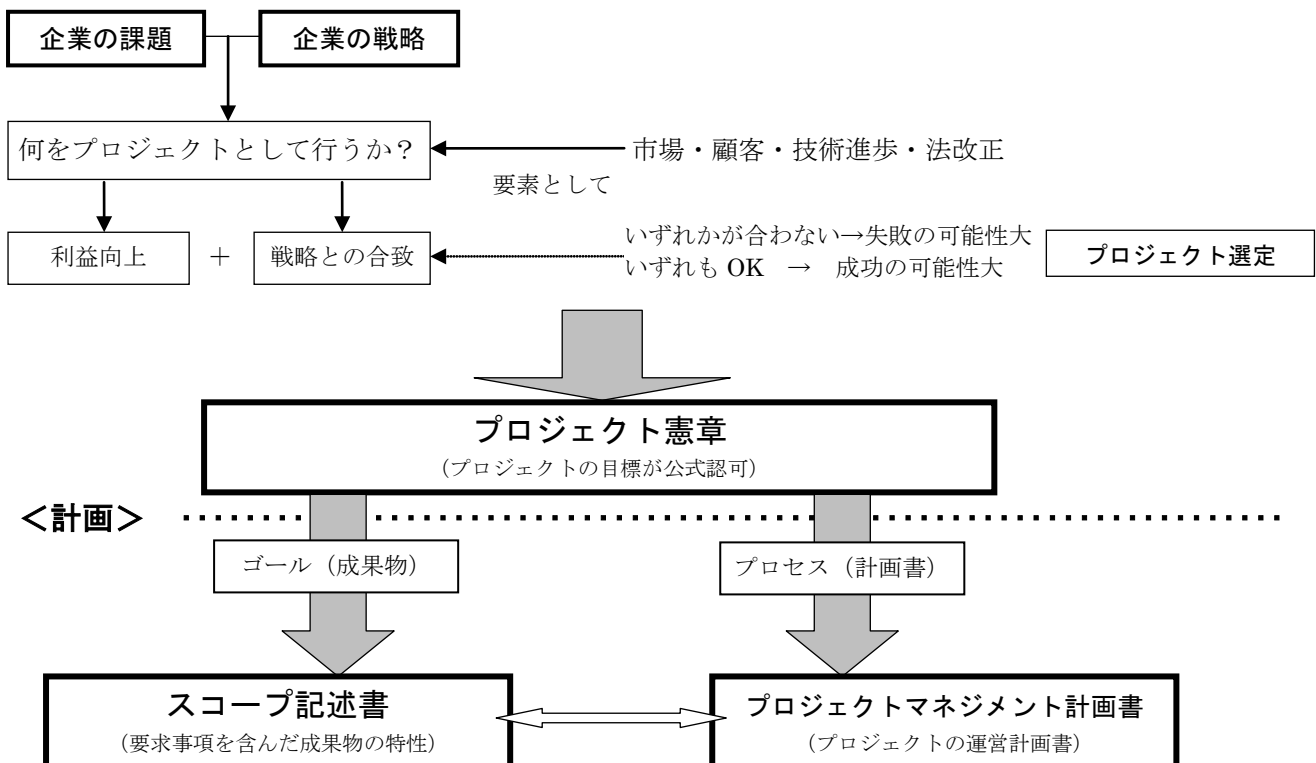
プロジェクトは以下の流れで、実行されます。



では、主要なプロセスを加え、以下の内容を完成させましょう。

<立ち上げ>

プロジェクトの骨子となる部分…プロジェクトを行う目標 ・プロジェクトを通して得られる目標・成果



上記の流れを確認すると、まずプロジェクト憲章は、プロジェクトの目標*などを記載したものです。つまり、プロジェクトに関する基本的な方向性が記載されています。またこのプロジェクト憲章に変更が必要になった場合は、「プロジェクト自体の存続が疑問視される」ということです。つまりプロジェクト憲章の変更は、プロジェクトを継続する価値はないということを意味しています。

またスコープ記述書は、プロジェクトを通して生み出される成果物の特性・機能を記したものとなります。つまり、プロジェクトを実行するには、プロジェクトの骨子となるプロジェクト憲章とスコープ記述書はとても大切なものになります。

プロジェクトマネジメント計画書は、プロジェクトの運営計画書という位置づけです。たとえ、しっかりとした目標・成果であっても、運営計画が良いものでなければ、プロジェクトを成功することはできません。

つまり、プロジェクト憲章・スコープ記述書・プロジェクトマネジメント計画書の3つは非常に大切な関係であり、重要な要素となります。

*SMARTの原則

目標とは、具体的・測定可能・合意性・現実性・期限が守られているという基準を満たす必要があるという事で意味しています。

では、スコープ記述書について、簡単に見ていきましょう。

